

庁 議 録

招集年月日	平成 25 年 12 月 26 日 (木)							
開会時刻	午前 10 時 10 分	閉会時刻	午前 10 時 33 分					
開催場所	庁議室							
出席の状況 (○出席者、代は代理出席)								
1	市長	○	2	副市長	○	3	教育長	○
4	総務部長	○	5	直轄理事	○	6	財務部長	○
7	市民生活部長	○	8	理事兼政策監	○	9	健康福祉部長	○
10	産業部長	代	11	建設部長	○	12	上下水道部長	○
13	教育部長	○	14	こども部長	○	15	伊達総合支所長	○
16	梁川総合支所長	○	17	保原総合支所長	○	18	霊山総合支所長	代
19	月舘総合支所長	○	20	議会事務局長	○	21	会計管理者	○
代理出席者	10 産業部次長 18 霊山副総合支所長							
職務のため出席した者	健康福祉部次長、建設部次長、総合政策課長、健幸都市推進室長、総務課長、人事課長、秘書広報課長、財政課長							
案件説明のため出席した者								
付 議 事 案 協 議 事 項	<p>1. 市長あいさつ</p> <p>2. その他</p> <p>(1) 特別職主要業務予定について (年末年始)</p> <p>(2) その他</p>							

庁 議 の 内 容（協議経過、結論等）

1. 市長あいさつ

平成 25 年度は伊達市にとってもひとつの区切りの年だった。なんといっても放射線対策を中心とする災害対策が一定の方向が見えてきたことだと思う。放射能災害はまさに未曾有のことであり、手探りでやってきて、議論して取り組んできたことが一定の収束に向かっている。

一例を挙げれば、不安を解消するためにガラスバッチを全市民に着けてもらった。自分自身の線量を確認することで安心を得ることができると思ったからである。データを分析した結果、大半の市民が 1 ミリシーベルト以下であることが分かった。そして、大事なものは空間線量ではなく、個人の被ばく線量であることを実証した。

この 5 万人のデータの分析結果は、学者、学会等にも評価されている。昨日、職員研修で講演いただいた中西先生（横浜国立大学名誉教授）も伊達市のデータを使って、いろいろなところで話をされている。大変ありがたいことだ。

データの分析結果からも我々が今まで取り組んできたことが間違いではなかったし、これからの方向性についてもある程度分かってきた。伊達市が先行して取り組んできた成果やノウハウは、求めに応じて他の市町村にも提供してよいと考えている。

さらに来年は、強制避難の市町村に対する施策を国や県が打ち出す時機がきていると思う。そういう中で、我々、伊達市も行動すべきときではないか。つまり、具体的に言えば、避難している市民の「受け入れ」ということを口に出して、行動に移していくべきではないかと考えている。これまで憚られてきたことではあるが、そういう段階は過ぎたのではないか。現に、私のところにも「土地がほしい」、「家を建てたい」という話がきている。既に家を建てて住んでいる人もいるのが現実である。

そういう意味でも、来年はまた新たな局面になっていくのだと思う。ぜひ、よろしく願いたい。

2. その他

(1) 特別職主要業務予定について（年末年始）

(2) その他

